

かわせみ通信

発行：神奈川県自然環境保全センター
自然保護課

住所：神奈川県厚木市七沢657

TEL：046-248-6682

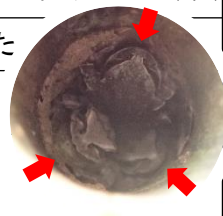
野外施設自然情報

バックナンバーは
HPから見られます→

自然環境保全センターの野外施設では、それぞれの季節に、生き物同士の巧みなつながりや、興味深い生命活動など、大自然の不思議な現象にふれることができます。
この「かわせみ通信」では、野外施設の出来事や生き物たちの様子を紹介しています。

野外施設トピックス (11~2月)

日付	場所	できごと
11月30日	玄関前	丸太に開いた穴の中にひしめき合うアマガエルを発見 冬の間、この穴で過ごしたようです ニホンアマガエル(3匹)
12月~2月	谷戸の池周辺	池を明るくするために、池のほとりの樹木の枝を落としました
2月9日	Y2	ヤマアカガエルの産卵確認
2月14日	Y2	なぜか池の外にあったヤマアカガエルの卵に ルリビタキがくつき、来園者の方に救出されました



「はっけん！かんさつコーナー」1年間の記録

当センターは自然観察園などで多様な生き物を観察できますが、より気軽に小さな生態系を観察できるように、本館玄関横に小さな池や鉢植えの植物を設置した「はっけん！かんさつコーナー(以下かんさつコーナー)」を作ってみました。来館された方は既にご覧になっているかもしれませんが、2022年2月に始動してまる1年。どのような発見、観察ができたかを振り返ります。

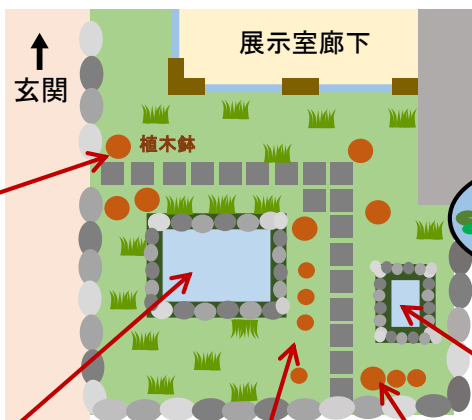


完成直後のかんさつコーナー(3月)



野外施設から採取した、いろいろな昆虫のエサになる樹木の鉢植えにしました。

- ・コクサギ
 - ・カラスザンショウ
 - ・ネムノキ
 - ・ブナ
 - ・エノキ
- を植えました



ザリガニなどの影響で水生植物が消えてしまった野外施設の池の土をプラ舟(61×47×19cm)に入れました。土中に残された植物の種子がよみがえるか、観察します。

⇒かわせみ通信29号で池の土から出たシャジクモを紹介しました。



とんぼ池

プラ舟(123×77×20cm)を埋め込み、人工の水辺を作りました。近くの池から採取したメダカと水生植物を入れました。トンボが産卵に来るのを期待します。

- ・イ
 - ・ショウブ
 - ・アサザ
- を植えました



野外施設から採集した樹木の種子を植木鉢に植えました。生育する様子を観察します。

- ・クヌギ
 - ・コナラ
 - ・オニグルミ
- を植えました



野外施設から採集した動物のフンから発芽する植物を観察します。

⇒かわせみ通信30号で紹介しました。

●ふっかつの水辺

かんさつコーナーが始動して早々の3月15日、最初のお客様となるヤマアカガエルの卵塊が確認されました。生き物が利用できる池と認められたようで、池を作った職員は大喜び！

残念ながら2023年は産卵はありませんでしたが、冬の間に中の土を入れ替えて、また埋土種子の復活が見られるか観察を続けます。



ふっかつの水辺に産み付けられた卵塊

●昆虫レストラン

夏から秋にかけて、ネムノキにキタキチョウの幼虫を見つけました。順調に蛹になったかと思いきや…出てきたのは小さなハチ。一部は寄生バチ（キアシブトコバチ）に寄生されていました。

カラスザンショウにはアゲハやクロアゲハの幼虫を見つけましたが、こちらは蛹になる前にすべていなくなっていました。ハチや鳥、カマキリなどに捕食されたと考えられます。

ちょっと残念な気持ちにもなりましたが、これも生き物同士のかわりの1つです。昆虫レストランでは今後も木の生長を見守りつつ、やってくる虫たちを観察していきます。



寄生された蛹は中のハチの蛹が透けて見える



正常な蛹は黄色い羽が透けて見える



クロアゲハの幼虫



(右)常連だったオオシオカラトンボ



ある日、オオカマキリがむしゃむしゃと…

●とんぼ池

7月下旬～8月上旬ごろ、オオシオカラトンボの雄がやってくるようになりました。池の縁の草に止まり縄張りを守る常連さんとして見守られていましたが、ある日、こちらも常連となっていたオオカマキリの幼虫に食べられてしまいました。空席となった縄張りには、すぐに新しいトンボが陣取っていました。

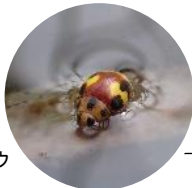
年が明けた2023年1月、1年で池の中にどのくらい生き物が増えたのか調べてみると、ヤゴが3種類とカゲロウの仲間の幼虫などの昆虫が見つかりました。小さな止水を好むトンボが飛んできて産卵したのでしょうか。クロスジギンヤンマは比較的大型で飛翔能力も高いトンボです。ヤゴも大きく、このとんぼ池では最強の捕食者です。イトトンボの仲間は移動能力は高くありませんが、ここまで飛来してくれたようです。夏にはトンボになった姿が見られるでしょうか。



昆虫以外にはハリガネムシの成体も見つかりました。カマキリに寄生し、とんぼ池にやってきたと考えられます。ハリガネムシは水中で産卵し、幼虫はまずカゲロウやユスリカの幼虫、ヤゴなどにエサと共に食べられてその体内へ入ります。それら水生昆虫が成虫になり陸上でカマキリに食べられて、やっとハリガネムシはカマキリに寄生することができます。そしてカマキリを操って水に飛び込ませ、にゅりりとして出てきて水中で繁殖した後、その一生を終えます。とんぼ池周辺には、この1年で関係する役者たちが出揃いました。今年はここから旅立つハリガネムシが現れるかもしれません。

かんさつコーナーのような小さなスペースでも、この1年で様々な生き物の営みに出会うことができました。今後生き物が増えれば、今回紹介したような種間関係もより複雑化していくでしょう。かんさつコーナーは引き続き、生き物が利用したくなる環境づくりを目指して工夫しながら、その変化を観察していきたいと思います。みなさんも何か生き物を発見したら、ぜひ教えてください！

1年間に「かんさつコーナー」で確認された生き物

昆虫など	オオシオカラトンボ、コシアキトンボ、ギンヤンマ、ミヤマアカネ、クロスジギンヤンマ(ヤゴ)、クロイトトンボの仲間(ヤゴ)、ヤブキリ、オオカマキリ(成虫、卵のう)、ハラビロカマキリ(卵のう)、ホソヘリカメムシ、アオオサムシ、ムネアカセンチュウガネ、アオドウガネ、コフキコガネ、コウゾチビタマムシ、ヒメツチハンミョウ、アマダテントウ、ピロードツリアブ、キアシブトコバチ、キタキチョウ(幼虫、蛹)、ルリシジミ、ベニシジミ、ウラギンシジミ、アゲハ(幼虫)、クロアゲハ(幼虫)、フタバカゲロウの仲間、ハサミムシ、オオムカデ類、ハリガネムシの仲間、ミズムシ	
両生類	ヤマアカガエル(卵塊)、ニホンアマガエル	
は虫類	ヒガシニホントカゲ	

アマダテントウ

当センターでは、傷病鳥獣の救護業務として、県民の方により持ち込まれた県内の傷ついたり弱ったりした野生動物（鳥類と哺乳類の一部）を収容し、必要に応じて治療やリハビリを行い、野生に戻す業務を行っています。この「かわせみ通信」では、持ち込まれた野生動物の「救護原因」や「リハビリ状況」などの情報を掲載しています。

● お知らせ ●

2022年9月に当センターにて傷病鳥獣として一時的に受け入れた野鳥から高病原性鳥インフルエンザウイルス陽性が確認され、防疫措置を実施するために9月26日から当面の間、傷病鳥獣の受け入れを休止していました。その後、防疫体制を整えて2023年1月24日より**哺乳類のみ**の受け入れを再開いたしました。新体制となりましたので「受付場所」などに変更点があります。持ち込まれる際は、**事前にお電話**でお問い合わせください。

また**鳥類**につきましては、一層の防疫強化に努めるべく準備を進めているため、**受入れ中止を継続**していますのでご注意ください。再開時には、ホームページ等で告知いたします。

皆様のご理解とご協力の程、よろしくお願いいたします。

2022年をふりかえって① コアホウドリ

当センターでの受入れ動物は、身近に出会える種がほとんどですが、生息数が少なくあまり出会えない貴重な種も受け入れています。今回は、その中でも主に海上で生活しているコアホウドリ（当センターでは7例目）を受け入れましたので紹介します。



① 自力でエサを食べなかったため、職員が毎日エサを食道の奥まで飲み込ませました。

環境省レッドリスト
絶滅危惧ⅠB類
（ⅠA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの）

受付 No. 220007
種 名 コアホウドリ（アホウドリ科）
受 入 日 2022年4月8日
救護場所 大磯町内の道路上
救護原因 不明
状 態 左肩を少し痛めている様子

地域住民から「道路にアヒルがいる」との連絡を受けた動物病院の中山獣医師が現場に行ってみると、なんとコアホウドリがいたそうです。

初めは身体が左に傾いてフラフラとしていましたが、エサとなるアジやヤリイカを数日間与え、治療し安静にしているとしっかり歩けるまでに回復（写真①）！

2022年4月12日に海上にて放野しました（写真②③）。



② 神奈川県水産技術センター相模湾試験場の調査船に同乗して、いざ出航！



③ 海上で放野！！

【御礼】 ご連絡いただきました地域住民の方、救護して持ち込んでいただきました中山和也獣医師、エサのヤリイカを提供していただきました特定非営利活動法人 野生動物救護の会の皆様、海上での放野のために調査船に乗船させていただきました神奈川県水産技術センター相模湾試験場の皆様、ご協力いただき誠にありがとうございました。

続いての紹介は、ミゾゴイ（当センター14例目）です。まずは、なかなか観察できないこの鳥を写真でよく観察してみてください。目の周辺にウロコ模様が見えるでしょうか（写真①）。さらに、肩羽や雨覆の先端部には白斑があります（写真②）。これらは幼羽の特徴で、ヒナが生まれる時期が5月頃であることから2021年生まれの若い鳥であるとわかりました。

受付 No. 220020

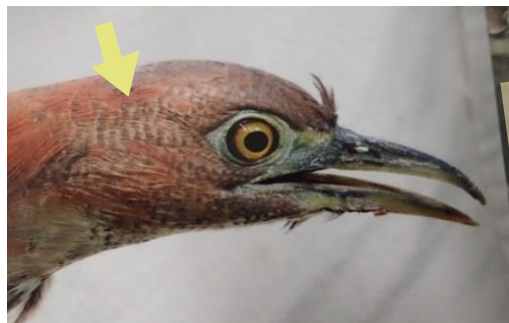
種 名 ミゾゴイ（サギ科）

受 入 日 2022年4月19日

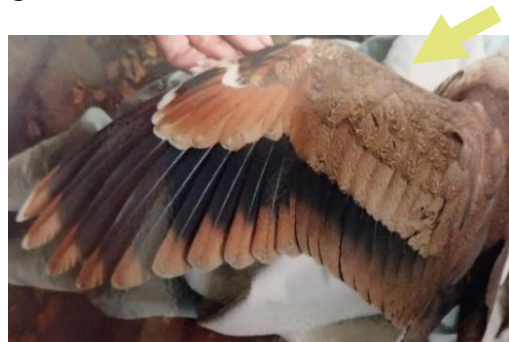
救護場所 生息地保護の観点から非公表

救護原因 不明

状 態 左肩関節脱臼の疑い



① 矢印の先の色に注目！



② 写真右上の矢印の先に注目！



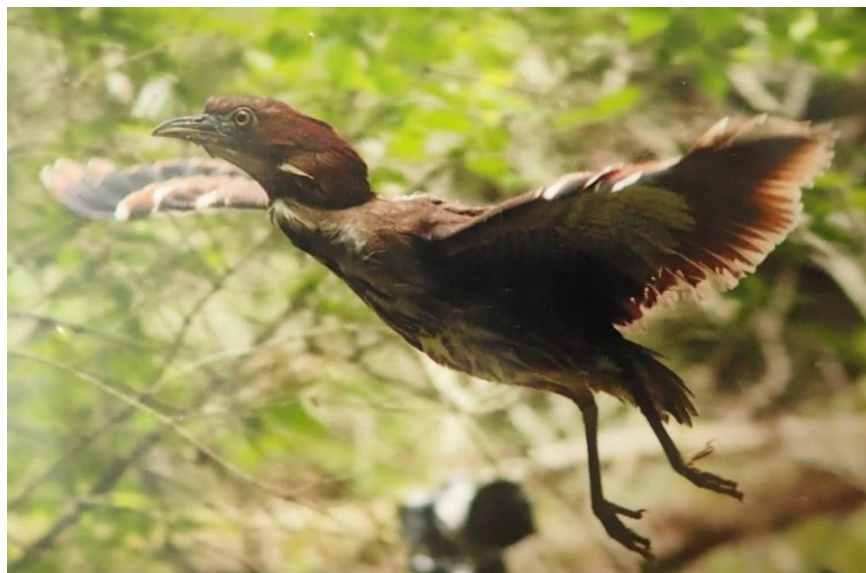
③ まるで枝のように擬態します

このミゾゴイは当初肩を痛めていました。渡り鳥なので、飛べるようになるのか心配でした。さらに、野生下で食べているものとは違うエサをどのくらい食べるのかも不安でしたが、目隠しをした小部屋の中で人の気配がなくなると、コツコツというエサを置いた皿をつつく音が……なんと昆虫などのエサをほとんど食べていました！回復の見込みがあると期待しました。ただ、容態を目視で確認したくても、ミゾゴイは、警戒しているときはじーっとして動かない習性があるので、経過観察しようとする途端に置物のように動かず……（写真③）。回復しているかどうか判断するのが難しいため、センサーカメラで24時間撮影を数日続けた結果、やっと旋回して飛ぶまでに回復していることを確認することができました。

2022年5月10日に適切な環境に放野しました（写真④）。ミゾゴイは、繁殖環境の減少等により、生息数が少なくなっていると危惧されていますので、生息地保護の観点から、放野場所は非公表です。

野生の中で繁殖してくれることを祈りましょう。

神奈川県レッドデータ生物調査
報告書2006
繁殖期・絶滅危惧種Ⅰ類
（絶滅の危機に瀕している種）



④ 放野時の堂々とした飛翔！

撮影者：重永明生氏

【御礼】 救護して持ち込んでいただきました県民の方、飼育方法や放野などについてご助言いただきました横浜市繁殖センターの皆様、神奈川県立生命の星・地球博物館の皆様、ミゾゴイの撮影をしていただきました重永明生様、ご協力いただき誠にありがとうございました。